ひらけ蘭学のとびら

鳴海風作　関屋敏隆絵　岩崎書店

藩医の家に生まれながら、病気で次々と家族を失った杉田玄白。今の医術に満足できず、修行を積むうち、あるオランダの医学書と出会う。医者でさえ人の体のしくみがよくわかっていなかった江戸時代、そこにあった絵は、罪人の死体を観察して知った人体内部とそっくりだった。

この本を世の中にしめしたい。彼と仲間たちは、オランダ語を知らないうえ、辞書もないという困難を乗りこえて、翻訳を完成させる。

『解体新書』を世に送り出した杉田玄白と仲間たちの情熱の物語。